

THE Y'S MEN'S CLUB OF NASU

NETWORK NASU

CHARTERED 1995



那須ワイズメンズク

2023~2024年度 No.292

4 月報

那須クラブ会長 主題

「若者と共に」成長しよう



強調月間：Week 4Waste
RBM

今月の聖句 ヨハネによる福音書 17：21

父よ、あなたがわたしの内におられ、わたしがあなたの内にいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしの内にいるようにしてください。(略)

4月第1例会(能登半島地震災害支援活動報告会)

日時：4月26日(木)午後6時~8時30分

場所：日本基督教団 西那須野教会 2階礼拝堂

内容：2024年1月1日、能登半島地震が発生。日本赤十字社栃木支部では、被災地を支援していくために那須赤十字病院より、医療チームを派遣された。チームを派遣支援、現地に派遣された方よりお話をお聞きます。

司会 藤生 強
会長挨拶 会長代理 田村 修也
公開講演会

井戸沼由美子先生(那須赤十字病院 医療社会部師長)

高橋慶悟先生(那須赤十字病院 主事 被災地派遣者)

質疑応答

閉会挨拶 会長代理 田村 修也

1階ホールに移動し、食事会・懇談

西那須野教会の方々とワイズメンバーでささやかな食事の準備をさせていただきました。どうぞ食事をとってお帰り下さい。

台湾東部沖地震の献金箱は、入口に置いてあります。

2023~2024年度 主題

国際会長：(IP) ウルリック・ラウロセン(デンマーク)

「輝かそう、あなたの光を」

アジア太平洋地域会長：(AP) 利根川 恵子(川越)

「改革のための光となろう」

東日本区理事：(RD) 山田 公平(宇都宮)

「未来のために今、学びと気づきを！」

未来のために、自信を育み、真の喜びに出会う！」

北東部長：大久保 知宏(宇都宮)

「クラブのミッションを育てよう」

クラブ役員

会長：河野 順子

副会長：村田 榮・田村 修也

書記：藤生 強

会計：村田 榮・鈴木 保江

担当主事：平山 雄大

ブリテン：田村 修也・村田 榮

3月例会データ(出席率：62.5%)

在籍者 8名

出席者 4名 メネット 2名 ユースリーダー 4名

ゲスト 6名 メイキャップ 1名

4月 Happy Birthday

4/19 平山 雄大

・アジア学院入学式

日時：4月13日(土)午後1時~

場所：アジア学院

・4月第2(役員会)例会

日時：4月26日(金)午後4時30分

場所：西那須野教会1階

役員会后、Week 4Wasteとして西那須野教会周辺のごみ拾いを行います。

巻 頭 言

藤生 強

①私の勤務するYMCA特養マイホームきよはらの新型コロナ状況報告第9弾

前回『3度目の感染（クラスターでは無いが・・・）が8月上旬に発生した』は報告しましたので、今回はそれ以降となります。その後は、職員が施設外（家庭や市中など）で感染した事例はありましたが、施設内では発生しておりません。その代わり（？）に、1月末からインフルエンザ感染が、2月末からノロウイルス感染が、それぞれ“クラスター状態”にて発生しました。3月末には終息しましたが、2023年度は3つの感染症に振り回された1年となりました。

②YMCAようとう保育園にてEV車（電気自動車）を導入しました

開園当初より業務用車両として軽自動車を配備（リース契約）していますが、リース契約満了の入替えに当たってEV車である「サクラ」（日産自動車）を導入しました。導入の大きな理由は、災害時に緊急用電源として使用することです。とは言っても大きな災害が発生した場合に保育園は休園となりますので、園舎の電源確保ではなく、近隣の方々のスマホなどへの充電用電源として使用出来ればと考えた次第です。緊急用電源として使用する機会が無いに越したことはありませんが、備えあれば患いなしです。



2024. 3.14 3月例会（ユースリーダーと共におおいに食べておおいに語ろう）於：西那須野教会

3月第1例会(ユースリーダー共におおいに食べておおいに語ろう)報告

日時：2024年3月14日(木)午後6時30分
場所：西那須野教会

出席者：田村、原田、平山、村田のメン、田村、村田のメネット、ゲスト：ユースリーダー4名、YMCAスタッフ1名、張さんのお友達(中村さん)、西那須野教会潘牧師ご夫妻、古川さん、高久さん、計16名



3月例会は、ユースリーダーと共ににおおいに食べて、おおいに語ろうと題して、西那須野教会の1階ホールをお借りして開催しました。食事の準備は、西那須野教会の方々とワイズの協力で午後4時から行ってくださいました。又ワイズの持

ち寄りの品もあり、大変豪華な食事会となりました。

例会はリーダーの集まりを考えて、午後7時より開催。平山担当主事の司会のもとで食事を取りながら自己紹介を兼ねて開催しました。3月15日に入籍をされた、平山主事にクラブよりお祝い金を送りました。参加をしてくださった、リーダーの感想文を掲載します
めんまリーダー(佐藤孝輝)



普段、大田原で生活して公園の花壇が整理されていたり、道に落ちているゴミが無くなっていることがあります。それは、全て誰かの気遣いやボランティアによって行われていると、今回の例会を通して感じました。これからは、困っている人を見つけたときや、ゴミが落ちていたら、自分から行動できるような考え方をもちたいと思います。

ちょんリーダー(矢部将吾)

先日のY'sでの食事会では、那須YMCAのこれからについて、Y'sの方々と話し合いました。4月から新しい年度が始まり、新しく国際医療福祉大学に入学する多くの一年生がYMCAに対して興味を持っていただけるように、Y'sの方々の力をお借りしながら交流の機会を設けていきたいと思ひます。2024年度の抱負を話し合う、実りある食事会に

なりました!

よっし〜(吉田愛理)

Y'sのみなさんとお食事をしながら、今後のYMCAについてお話ししました。Y'sのみなさんと話しながら、どのようにしていけば那須YMCAがよくなっていくのか、現在足りないものは何かを考えることができました。今後、より一層充実した活動ができるよう、Y'sのみなさんとお話したことを周りのリーダーに伝えていきたいです。

つな(小松崎 颯太)

先日、Y'sのみなさんとお食事をし改めてYMCAとはどんな団体なのかどのくらいの規模の組織なのか理解することができました。那須YMCAがこれから発展していくのには何が大切かよく考えてこれからのYMCAでの活動をしていきたいと思ひました。ものすごく良い食事会でした。



2024年4月第2例会(役員会)報告

日時：3月22日(金)午後1時30分〜、3月27日午後4時〜

場所：田村副会長宅、河野会長宅

出席者：河野、田村、村田、の各メンバー
田村メネット、

1) 3月例会について(反省)

テーマ：大いに食べて、大いに語ろう

日時：3月14日(木)午後7時00分から(担当：平山) 場所：西那須野教会

参加者：リーダー4名、YMCAスタッフ1名、教会潘牧師夫妻、古川・高久、中村さん、会員6名 計16名 食事：キーマカレー、牛乳寒天サラダ、から揚げ、メンバーの持ち寄り、アイスクリーム等

お祝い：平山主事結婚祝い贈呈

※例会を実施した後、リーダーとの会食会を実施。食事は教会の古川姉と高久姉が奉仕してくれた。

※リーダーとの交流会での主な要望①宇都宮迄行かずにこの地域で独自の活動をしたい。②宇都宮に行くため1台の車で行けるようにしたい等。

※ワイズからリーダーによる独自の活動に対しての

助成金制度がある。甲府Yでは地域を巻き込んでのクリーン作戦が始まっている。那須Yも独自の活動を企画して取り組んでどうか。東日本区の助成で不足する分は、那須ワイズが支援する等。今後とも継続して行く。

※出席者の名札を準備する。食事の後片づけを簡単に出来るようにする等。

2) 4月例会について

講演会：テーマ「能登半島被災者支援活動報告」
(担当：鈴木保江又は藤生 強)

講師：那須日本赤十字病院医療社会部部長井戸沼由美子先生及び高橋慶悟主事（災害地派遣者）

日時：4月26（金）午後6時から 場所：西那須野教会

※①講師の日について（上記の通り）②依頼状（不要）、③謝礼（井戸沼1万円、高橋5千円）

④送迎（不要）⑤食事（準備する）⑥スライド（P・P？）準備⑦その他必要なこと

※ワールドクリーンディーについて実施する。教会周辺の公共施設の清掃 午後5時から実施

3) 5月役員会

日時：4月26日16時30分から 会場：西那須野教会

テーマ：5月例会 植樹例会

日時：5月18日（土）実施時間は国有林と打合せをする。 場所：那須街道赤松林

※村田副会長が国有林担当者と連絡を実施。黒磯GSには実施時間を決定し田村が連絡する。

4) シイタケコンブの発注は4月下旬とする。

5) 聖園那須老人ホームへのタオル等の贈呈について①河野会長ストック分は赤坂さんに取りに来てもらった。②シーツ等は張さんが裁断を始めたが、手術入院の為田村メネットも裁断して次回贈呈に備える。

6) 張会員は3月25日半月板を手術。入院中だがリハビリ始めた。塩原県立病院で約4か月リハビリ実施。

三島開拓地での孤児教育事業—本郷定次郎の生涯— (5)

副会長 田村 修也

事業を支えた人々

田代国次郎編「現代栃木福祉の基礎」の中で栃木福祉を切り開き、築いていった本郷定次郎、ヒデ夫人らの「那須野孤児暁星園」は近代日本が生んだ偉大な福祉の先駆者であり、しかも栃木県で育ったことを挙げている。彼らの活動を支えたのは青木周蔵

（青木開墾）、三島弥太郎（三島開墾）、中川嘉平（地元篤志家であるが知る人がいない）、佐藤一誠（下野日々新聞記者）や地元西那須野の住民であった。

懸崖からの支援者のなかには、石井十次（岡山孤児院）、原胤明（基督教境事業者）、原女学校＜女子学院＞設立者、生江孝之（社会事業者、日本女子大学教授）、ホイットニー（赤坂病院長、主著に「日本医学史」がある）、そのほかキリスト教関係者が多くいた。

園主本郷定次郎関係をみると、

戸主 定次郎 慶応二年十一月二日生

妻 ヒデ 明治八年九月三日生

母 イク 天保九年正月十一日生

姉 コト 文久元年二月二十八日生

弟 テイサン 明治六年八月十五日生

長女 愛 明治二十七年八月四日生

養女 シン 明治十年十一月二十一日生

二女 順 明治三十年一月三十日生

長男 慰與男 明治三十二年二月二十一日生

の九名が、那須郡狩野村大字三島六拾一番地に戸籍を定めた。

1892年（明治25）暮れが迫った12月11日、八ヶ月間開墾地の住民との間に孤児施設に対する理解が得られず、トラブルの為、耐えに耐えてきた青木開墾地を去った暁星園は、三島弥太郎の好意にすがり彼の主宰する三島開墾地に移った。明けて二十六年、残金わずかに一厘という越年だったが、静かな正月を迎えることが定次郎にとって大きな喜びであったろう。東京を出て初めての冬を迎える七十余名の大家族は、三島開墾地の人びとに支えられて生活の一步を歩み出した。

園財政の窮迫と生活困難は相変わらずで、大家族の食糧、医療、衣類、燃料、諸雑費等の生活費と農作業のための経費は莫大であった。近所の移住者たちの作った貴重な食糧であるサツマイモを園児達は分けてもらうことが度々あった。

その年の春、米国人医師ホイットニーから48円の寄付があり、園舎の建築に充て、他からの寄付では桑畑一町歩と桑の苗を買って養蚕を始めた。駅近くの理髪店、機業工場を作ったのもその時であった。こうして園はどうやら形を整えてきたが、農業の経験のない集団は、ことごとく失敗を繰り返した。

理髪店を弟、悌三が経営した。1898年（明治31）5月西那須野町一番地（現永田町）に分家している。

ヒデが中心になって始めた養蚕も失敗してようやく若干の繭がとれたのが秋蚕であった。園の計画で

は絹を織り上げて収入を目論んでみたが成功にいたらず、幾人かの協力者がボランティアとして活動したこともあって、大豆、蕎麦、馬鈴薯、甘藷などの収穫もあったので冬を越す準備が出来た。

暁星園の建物は開拓地にあって堂々たるもので、教室、運動場、機業場を含む工場の如き風の建物であった。

今の旧4号国道と国道400号線の交差点西側で大滝敬子宅付近に当たる。東側には三島村役場が、北方正面には三島開墾事務所（郷土資料館※消失により現在は那須野が原ミュージアム）があった。（以下次号へ）

西那須野幼稚園だより

学校法人 西那須野学園
西那須野幼稚園

園長・理事長 福本 光夫

ウクライナでの戦争が一刻もはやく終えて、普段の生活にもどれますように。

イスラエルの無差別攻撃により、民間人3万人、とりわけ子ども達が犠牲となり集団墓地化したガザでの民間人虐殺が即刻中止され、飢餓に瀕している人たちに食料が届きますように。

能登半島地震で被災された方々、支援活動をされておられる方々の健康が守られますように。

「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。愛は自慢せず、高ぶらない。礼を失せず、自分の利益を求めず、いらだたず、恨みを抱かない。不義を喜ばず、真実を喜ぶ。すべてを忍び、すべてを信じ、すべてを望み、すべてに耐える。愛は決して滅びない」（聖書 コリントの信徒への手紙Ⅰ 13章4節～8節）

新しいヘッドホンが届きました。長年愛用していたヘッドホンの修理ができず、差額を払うことで現行品が届きました。

早速、耳に当ててみました。すると、周囲の音はシャットアウトされ、目を閉じますと、一流の音楽家による演奏を、1人コンサートホールで聴いているかのような感覚になりました。そして、それは、前機種で初めて味わったときの素晴らしい感動を大きく超えるものでした。

先週から今週にかけての発表会での子ども達の演技や演奏は、1人1人その子なりの成長がうかがえるととても素晴らしい内容でした。保護者の皆様もそうであったように、私も涙が自然に頬を伝わりました。子ども達の演技や演奏は、一流の演奏家の素晴らしい演奏や新しいヘッドホンを超越しています。

その違いは、何でしょうか。私は、「愛」があるかどうかと考えます。

冒頭は、「愛の賛歌」と呼ばれている大変有名な聖書のことばで、教会の結婚式では必ずと言っても良いほど引用されます。その箇所の上に「愛がなければ、わたしは騒がしいどら、やかましいシンバル（同13章1節）」とも記されています。

子ども達が、「愛」をもって演じてくれましたので、私たちは、「愛」をもって受け入れたのです。

私は、冒頭の聖句は、結婚式だけではなく、「子育て」・「子育て」についても当てはまると考えます。これからも、神様からの「愛」のもと、「愛」を基調とした親子の相互関係の絆が少しずつ太くされることを願っています。

アジア学院だより

学校法人 アジア学院

アジア農村指導者養成専門学校

校長 荒川 朋子

アジア学院はアジアからの学生のみで始まった学校ですが、現在は学生の約半分がアフリカからです。応募の段階ではアフリカからの方が約7割を占める年もあります。今アフリカ諸国は「グローバルサウス」と呼ばれる新興・途上国の一角を成すと言われていて、世界経済にも大きな影響を与えるようになってきました。アフリカは日本とは逆に人口増加が続いていて、生産年齢人口も増加傾向にあります。遠くて文化も違うことから、日本からは遠い未知の国というイメージがありますが（私自身もそう思ってきましたが）、アジア学院においても、日本社会全体を見ても、アフリカで起きていることの影響は年々増しているような気がしています。

私は2月初旬の日経新聞で、ナイジェリアの元鉱業相で世界銀行の副総裁も務めた女性エコノミストのオビアゲリ・エゼウエシリ氏のインタビュー記事を見つけ、関心を持ちました。その要点は以下のようなものでした。

- アフリカでは軍事クーデターが多発していて、民主主義に対して不満がある。
- かといってロシアや中国のような権威主義的な政治も望まない。
- 行政の腐敗が発展の足かせになっているが、先進国が世界中の途上国の腐敗を助長する影響力を行使してきた。
- 天然資源で得られる富を海外に流出させる政治家とグローバルな資源開発企業の間には大きな

間がある。

- 西側諸国は途上国に対して差別的な慣行を続けてきた自らの歴史を振り返るべし。特に植民地支配の過去に対する謝罪、賠償をすべし。

そしてエゼウエシリ氏は、「これからの世界的規模の問題に対しては、西側諸国中心の旧来の方法では解決策は得られない。新たなシステムや手法を見出すには、西側諸国が他の国々を対等なパートナーとして扱わなければならない。そして世界的な課題を前に共通する利害が各国を結束させる力になるだろう。」と主張しました。

私はエゼウエシリ氏が話したことの中で、特に「植民地支配に対する謝罪」という部分に着目しました。それは、北東アジアにおいても同じことが言えると思ったからです。

日本を含む北東アジアの国々の関係は長い間緊迫状態にあります。それは日本が第2次世界大戦中にアジア諸国に対して行った行為についての「謝罪」を真剣に考えていないと認識されていることにも一因があります。日本においては、国会議員ですら、「もう済んだことだ」「いつまで謝罪すれば気が済むんだ」「そもそも謝罪なんてしなくていい」などと主張する人がいますが、アジア学院におりますと、第2次世界大戦中の日本の侵略の犠牲になった国々の人々が、「謝罪は済んだ」とか「戦後処理は清算された」ということを納得していると思ったら、それは幻想に近いものであることがよくわかります。犠牲になったアジアの国々の子孫の中はまだまだ日本に対しての怒り、恨み、わだかまりを持っている人が少なくありません。この紙面にも書かせていただきましたが、アジア学院では昨年と一昨年、日本軍の捕虜になって命を落とした元英兵の家族への謝罪を発端に、世界中で戦争の経験から謝罪を必要としている人々に日本人として謝罪の旅を続けている恵子ホームズさんをお招きしました。その時に、恵子ホームズさんが、アジア学院にいた日本軍の侵略の犠牲になったアジア諸国の学生たちを前に謝罪をされ、それに加わることができた私は、謝罪は終わっていないし、これからも続けなければいけないと痛感しました。

エゼウエシリ氏の主張からは、これと同様のことがアフリカ諸国に対しても言えるということが分かりました。遠いアフリカの国に対しては、日本は無関係だと思っている人がほとんどだと思いますが、日本は西側、あるいは先進国の一部とし、アフリカを犠牲にして、搾取して成長してきた歴史があります。その意味で無関係とは程遠い関係にあります。

多くのアフリカからの学生を招いてアジア学院が農村指導者養成を続けていくうえで、また「土からの平和」を提唱していくうえで、アジアそしてアフリカに対する「謝罪」は避けて通れない問題であるし、勇気と誠意をもってこのことと向き合うことで、よりよい研修が実施できると思っています。

YMCAだより

【とちぎYMCA大会2023が開催されました！】
2024年3月3日（日）、「とちぎYMCA大会2023」が開催されました！



とちぎYMCA大会とは、とちぎYMCAに関わる全ての皆さまや、こ

れから関わるあらゆる方々と一緒に、YMCAの働きを通して未来に期待していくための大会です。今回のテーマは「Reframe」。とちぎYMCA50周年に向けて、どのようなYMCAにしていきたいかをレイパーソンの皆さまと共に考えていく大会になりました。

今回の大会では、
session①Vision2030 ってなに?! (日本YMCA同盟 杉野 歌子 氏)

session②Reframe -とちぎYMCA- (とちぎYMCA 塩澤 達俊 氏)

の2部構成で、会員の方だけでなく、とちぎYMCAの各事業所につながる多くの方々と共に、とちぎYMCA50周年への歩みを進める第一歩を迎える



ことが出来ました。

ご参加いただいた皆様には、ご自身の思う「YMCAとは」を語っていただき、そ

の中で世界のYMCAが進めているVision2030と、とちぎYMCA50周年に向けての歩みを確かなものにして頂く機会になったのではないかと思います。これからもとちぎYMCAは、皆さまとのつながりを大切に共に歩んでまいります。

【とちぎYMCA・那須YMCA 4月の予定】

- ・ 4/1 (月) とちぎYMCA職員就業礼拝@宇都宮市青少年活動センター (トライ東)
- ・ 4/27 (土) 西那須野幼稚園サタデークラブ新年
度開始
- ・ 4/27 (土) サタデークラブ@長峰公園 ハイキ
ング

ユースリーダーのつぶやき

1. 名前 (リーダー名) 2. 学校名 3. 出身地 4. YMCA
に入ったきっかけは? 5. 思い出に残った活動とその理
由は? 6. 今後の進路は? 7. YMCAに一言

お休みします

那須ワイズメンズクラブ 主催

能登半島地震 災害支援活動報告会



写真はNHK資料より掲載

2024年1月1日、能登半島地震が発生。日本赤十字社栃木支部では、被災地を支援していくために那須赤十字病院より、医療チームを派遣された。チームを派遣支援、現地に派遣された方よりお話を伺います。

講演会后、軽い食事の準備をしております。下記の田村まで出席の連絡をお願いします。

4月3日に発生した、台湾東部沖地震への募金も受け付けます。

入場無料

講師：井戸沼由美子先生 (那須赤十字病院 医療社会部師長)

高橋慶悟先生 (那須赤十字病院 主事 被災地派遣者)

2024年4月26日 (金)

午後6時～午後7時30分

会場/日本基督教団西那須野教会

住所：那須塩原市太夫塚1丁目232-438 電話：0287(36)4820

【主催】 那須ワイズメンズクラブ・那須YMCA

お問い合わせ 那須ワイズメンズクラブ 会長代理 田村修也 090-5545-6763